

## 九州支部 2015 年度総会・研究会報告

九州支部長 藤元嘉安（宮崎大学）

九州支部では、今年度、委員の交代がありまして、4月25日に引き継ぎ会が行われました。支部長は近藤哲男先生（九州大学大学院）に代わり前副支部長・藤元嘉安（宮崎大学）が仰せつかることになりました。新副支部長は、堤祐司先生（九州大学大学院）が務められます。近藤前支部長および前執行部の方々に対しまして厚く御礼を申し上げますとともに、新執行部の方々に支部運営へのご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

支部総会は、例年、支部大会に併せて開催されております。本年度の支部大会は、別途ご案内いたします通り、10月5、6日の開催となっておりますので、総会のご報告は次の機会にさせていただきますと思います。

今回は、5月19日に九州大学・箱崎キャンパスにおいて開催されました「日本木材学会九州支部 教育・研修セミナー」および9月25日に九州大学・箱崎キャンパスにおいて開催されました「日本木材学会九州支部講演会」についてご報告いたします。

### 日本木材学会九州支部教育・研修セミナー

#### －「分子」からバイオマス形成－の開催報告

木質バイオマスの循環利用を目指す「サステナブル資源科学」の研究方向のメインストリームの一つとして、「分子」からバイオマス形成」までを一気通貫する話題を集め、日本木材学会九州支部の教育・研修プログラムとして企画し、平成27年5月19日に九州大学・箱崎キャンパスにおいて開催しました。日本木材学会九州支部が主催し、九州大学大学院農学研究院およびセルロース学会西部支部の共催となっております。

京都大学大学院農学研究科・高部圭司教授による「樹木の細胞壁形成メカニズム」、九州大学大学院農学研究院・堤祐司教授による「リグニン形成の分子機構と木質の改変」、岡山県農林水産総合センター生物科学研究所グループ長・小川健一氏による「新規なCO<sub>2</sub>吸収促進技術を用いた持続的なバイオマス利活用構想」および九州大学大学院農学研究院・松村順司教授による「多種多様な木質資源を・・・国産で！」と題した講演をいただきました。また、講演終了後に簡単なミキサーを設け、今後の連携を含めて先進的で学際的な教育研究を推進するための討論の場としました。

### 日本木材学会九州支部講演会の開催報告

木材学会九州支部主催の講演会を、9月25日（金）に九州大学農学部において開催しました。講演会では、大分大学工学部の井上正文教授に、「私に取り組んできた木質構造研究とその応用」と題し、講演していただきました。九州大学の学生・院生をはじめ、大学教員、地方公設試研究員など、約30名の参加がありました。

最近でこそ、工学部の建築学の研究者で木質構造の研究を行う人が多くなってきておりますが、井上先生はいち早くスギや竹などの地域資源に目を向け、ユニークなアイデアで様々な研究に精力的に取り組まれておられます。今回は先生が長年取り組まれた木質構造の研究や普及活動を中心にご紹介いただくとともに、今後の建築や木材利用に期待することをお話いただきました。

井上先生の研究分野は、筆者と研究分野が近いことから、先生の研究成果をいろいろな場で見聞きすることが非常に多くありましたが、今回の講演によりその研究の流れ・全体像を良く理解することができました。また、先生は非常に幅広く多様な研究を積極的に推進しておられますが、そこには、先生の研究スタンス（建築の実務を見据えた研究、地域を意識した研究、ダメもと精神、産官学連携の推進など）が深く関わっていることがよく感じられる講演でした。